

藤森秀夫童謡碑

所在地 長野県安曇野市豊科町豊科 5558 豊科北中学校 校門内

めえめえ 森の児山羊
児山羊走れば

小石にあたる
ふたりや あんよが
あ いたい
そこで児山羊は
めえ と なく

めえめえ 森の児山羊
児山羊走れば

株っこにあたる
あたりや あんよが
あ いたい
そこで児山羊は
めえ と なく

やぶこあたれば
はらがちくり
とつこ あたれば
くびこが折れる
折れりや児山羊は
めえ と なく

藤森秀夫

略歴

藤森秀夫 明治 27 年 3 月 1 日 長野県北安曇郡豊科村に生まれる 東大
独文科卒業 昭和 37 年 12 月 20 日歿す 享年 68 歳

碑陰

藤森秀夫

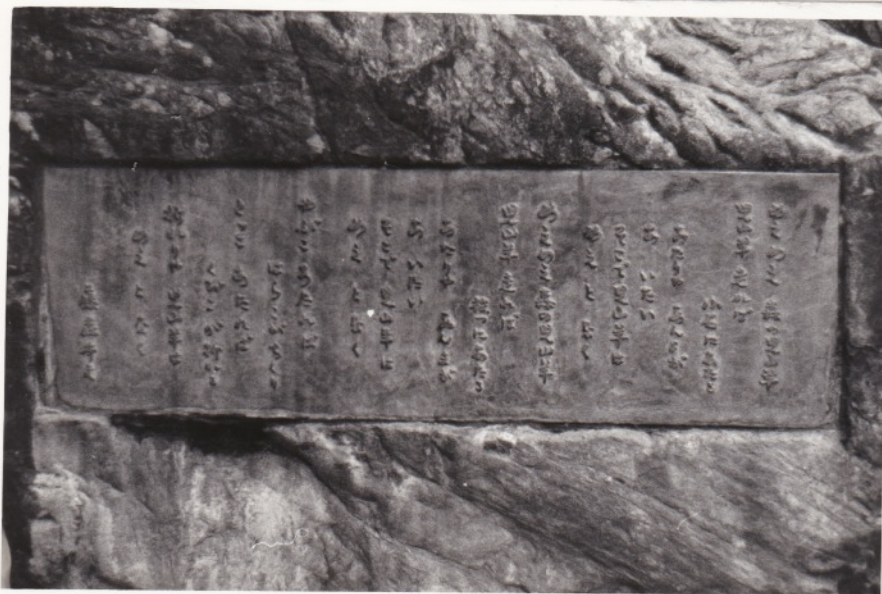
一八九四—一九六二

ドイツ文学者 詩人
大正の 末期から
民謡詩 自然詩の
さきがけとなり

日本詩壇の
最高峰となられた
先生を生み詩情を
育てたこのふるさとに
若い人々の
美しい心と
希望を育てたいと
この碑をたてました

一九六四年春 有志

詩は藤森幸の筆による



荻原
（守衛）
礪山美術館（三葉）



礪山作「女」



礪山作「労働者の像」

藤原咲平歌碑

所在地 長野県諏訪市 霧ヶ峰高原 霧鐘塔近く

草に臥て青穴工みれば

天と地と

我との外に何物もなし

咲平

上 気象学者藤原咲平先生は明治十七年十月二十九日
父君の古武士的な薫陶のもとに育った
長じて東京大学に学び明治四十二年九月中央
气象台に奉職以来昭和三年三月中央气象台長の
職を辞するまで実に三十八年の長きにわたり日本
気象事業の発展に精励した
この間先生はお天気博士という愛称をもつて
国民に親しまれ渦動論をはじめ数々の独創的研究
により気象学および地球物理学界に寄与しました
その門下に幾多の俊秀を輩出せしめて世界的気象
学者としての名を残した
先生は深く国を愛し郷土を愛した 冒頭の
歌はこの霧ヶ峰で詠まれたものである
先生は昭和二十五年九月二十二日永眠された
われわれ一同は先生の高潔なる生涯を偲びここに
記念碑を建てる

昭和二十六年十月十五日

藤原咲平先生記念事業會
気象庁長官 和達清夫謹書

藤原咲平
の
ブロンズ胸像

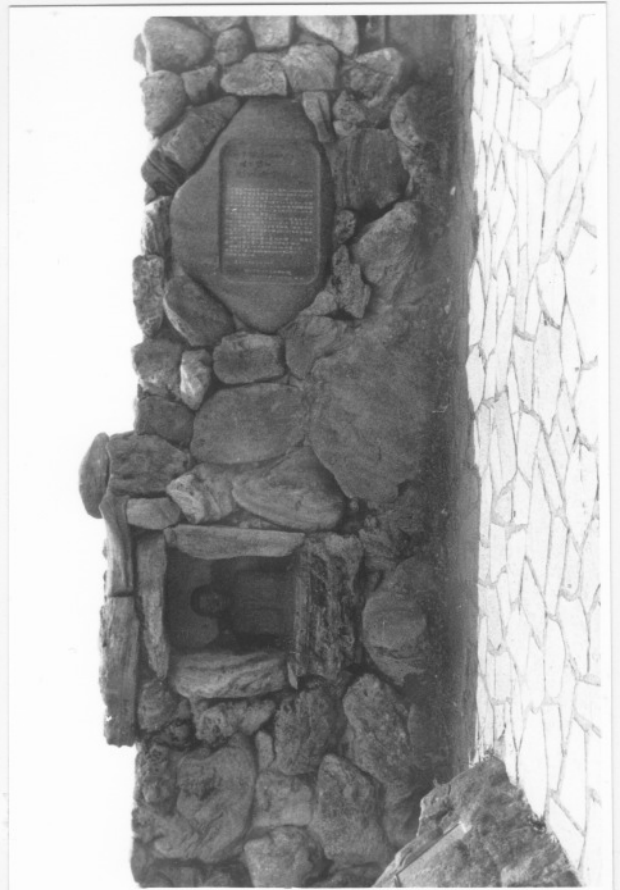
略歴

藤原咲平 明治十七年十月二十九日 長野
県上諏訪町角間に生まれる 東大
理学部理論物理学科卒業 昭和二十五
年九月二十二日歿す 享年六十五歳 法名
諦観院殿徹營虛心晴雲子居士 墓
は東京都府中市多磨町 多磨霊園
十六区三種八十五側十七番にある

副碑

＝K≧G≦K＝

前中気象局長藤原咲平博士は
昭和七年郷土諏訪の地に
霧ヶ峰グライダー研究会を創設された
以来この丘はグライダースポーツの
聖地として多くの善人を集め
今日に及んでいる われらは
この功績をたえ 先生をなつかしむ
のあまりこの碑を刻む
昭和五十二年七月二十六日
霧ヶ峰グライダー研究会誌



藤原咲平歌碑

所在地 長野県諏訪市 霧が峰高原 霧鐘塔近く

草に臥て青空みれば

天と地と

我との外に何物もなし

咲平

気象学者藤原咲平先生は明治十七年十月二十九日上諏訪町角間新田藤原光藏氏の長男として生れ父君の古武士的な薫陶のもとに育った

長じて東京大学に学び明治四十二年九月中央气象台に奉職以来昭和二十二年三月中央气象台長の職を辞するまで実に三十八年の長きにわたり日本気象事業の発展に精励した

この間先生はお天気博士という愛称をもって国民に親しまれ渦動論をはじめ数々の独創的研究により気象学および地球物理学界に寄与しましたその門下に幾多の俊秀を輩出せしめて世界的気象学者としての名を残した

先生は深く国を愛し郷土を愛した冒頭の歌はこの霧が峰で詠まれたものである

先生は昭和二十五年九月二十二日永眠されたわれわれ一同は先生の高潔なる生涯を偲びここに記念碑を建てる

昭和三十六年十月十五日

藤原咲平先生記念事業會

気象庁長官 和達清夫謹書

碑陰

文字なし

(ブロンズ像及び副碑は次の頁にある)



氣 頼

東 山 河

草

野



氣 頼

東 山 河

草

野

東 山 河

草

野

東 山 河

草

野

東 山 河

草

野

東 山 河

草

野

東 山 河

草

野

東 山 河

草

野

東 山 河

草

野

東 山 河

草



霧ヶ峰高原 ←

藤原咲平の

ブロンズ胸像

副碑

＝ K ≡ G ≡ K ＝
(横書き)

(この下に縦書きで次の文がある)

前中央气象台長藤原咲平博士は
昭和七年郷里上諏訪の地に
霧ヶ峯グライダー研究会を創設された
以来この丘はグライダースポーツの
聖地として 多くの若人を集め
今日に及んでいる われらは
この功績をたたえ 先生をなつかしむ
のあまり この碑を刻む

昭和五十一年七月二十六日

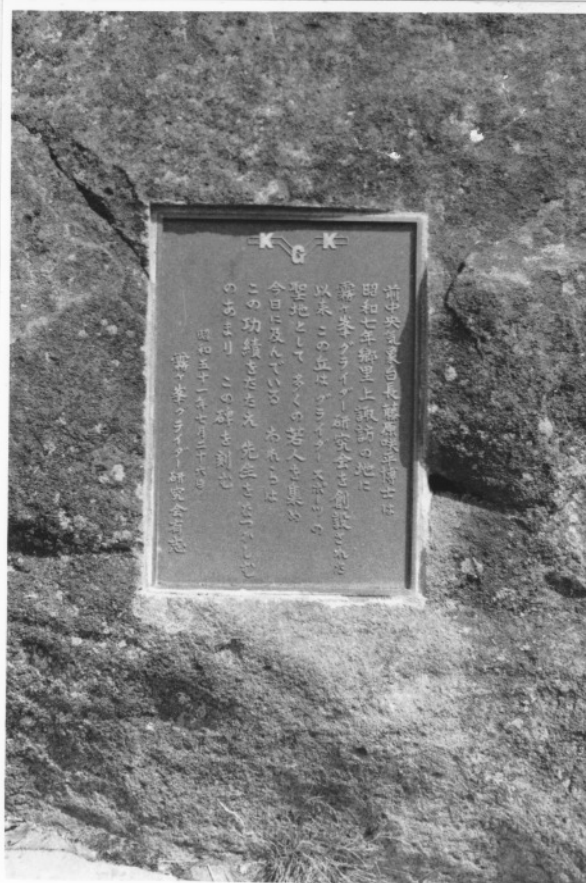
霧ヶ峯グライダー研究会有志

略歴

藤原咲平 明治 17 年 10 月 29 日 長野県上諏訪町角間に生れる 東大
理学部理論物理学学科卒業 昭和 25 年 9 月 22 日歿す 享年 65 歳 法名
諦観院殿徹譽虚心晴雲子居士 墓は東京都府中市多磨町 4 多磨霊園
18 区 2 種 85 側 17 番にある



咲平胸像
←



副碑
←

藤原 優 歌 碑

所在地 兵庫県加東市滝野町下滝野 1274 播磨中央公園内 石碑の丘

雲

新 墾 田 に

う れ い ね そ よ く

高 原 の

空

ゆ る や か

に

わ たる

ゆ き

雲

優



碑陰

昭和二十七年度兵庫県文化賞受賞

藤原 優

加東郡東條町新定

昭和六十一年十月

藤原千年建之

説明板 ↓



藤原 優 (社会教育)

明治18年2月1日生
昭和22年5月3日没

教職にあること40数年、この間、御影第二尋常
高等小学校長などを歴任するとともに、「校地教育」
という独特の学校経営を完成して、全国に校名を
馳せた。

また、公民館、女子学院の設立、企画、運営の
中心となり着々と実績を挙げるなど、非凡な才能
を発揮した。その他各種同好会を組織し、地域文
化の向上に貢献した。

平成2年12月設置



ファイル 56

舟橋聖一

前田透

船山馨

ブルーノ・タウト

北條秀司

細井魚袋

細川雄太郎

細見綾子

穂積忠

堀内民一

堀口大学

本庄陸男

前川佐美雄

前田晃

前田伍健

前田雀郎

前田曙山

前田純孝

舟橋聖一 記念碑

所在地 東京都墨田区横綱二十一 北越製紙ビル横

舟橋聖一 生誕記念碑

作家舟橋聖一は明治37年(1904)12月25日に、本町区横綱町二丁目二番地に生る。
作家、国文学者として盛名高く、数々の名作を遺すも、その七十二年の生涯は権威に屈せ
ず、市井の文人、文学者として独自の風格を以て貫かれている。
代表作の一つ、「花の生涯」は井伊大老の生涯を綴った醇平たる逸品であるが、文学者、
文化人として、前人未踏の道を歩いた作者の人生行路もまた、そのまま花の生涯と呼ぶに
ふさわしいものである。

井 上 靖

代表作:「木石」「川音」「悉皆屋康吉」「ある女の遠景」「好きな女の胸飾り」等
略歴:東大卒・明大教授・日本文学協会理事・国語審議会委員・横綱審議委員長・等
日本芸術院会員・文化功労者

花の生涯

左側面

北越製紙株式会社
昭和六十二年四月吉日建之



舟橋聖一記念碑

所在地 東京都墨田区横網 1-11 北越製紙ビル横

舟橋聖一生誕記念碑

作家舟橋聖一は明治 37 年（1904）12 月 25 日に、本所区横網町二丁目二番地に生る。
作家、国文学者として盛名高く、数々の名作を遺すも、その七十二年の生涯は權威に屈せず、市井の文人、文学者として独自の風格を以て貫かれている。
代表作の一つ、「花の生涯」は井伊大老の生涯を綴った醇乎たる逸品であるが、文学者、文化人として、前人未踏の道を歩いた作者の人生行路もまた、そのまま花の生涯と呼ぶにふさわしいものである。

井 上 靖

代表作:「木石」「川音」「悉皆屋康吉」「ある女の遠景」「好きな女の胸飾り」等
略歴:東大卒・明大教授・日本文芸家協会理事長・国語審議会委員・横網審議委員長・等
日本芸術院会員・文化功労者

花 の 生 涯

（以上横書き）

左側面（縦書き）

北越製紙株式会社

昭和六十一年四月吉日建之



花の生涯

東京都 豊島区

るまの海春二
き屋の遊静は馬

、音平文、なるあ
この平ら馬主の

青

前田一、聖徳太子
じら音平文、家外
文、人文の世市、
の詩、へーの清美
夫人前、アじら人平文
あつのみ、じらる



夢・異質
音平文

草木！音平文
・卒大東・聖徳

玄聖



舟橋聖一歌碑

所在地 石川県七尾市府中町 川端通り(御抜(みそぎ)川畔)

赤襟のをとめもありて

いろめきぬ七尾まだらの

たのしき夜かな

左側面

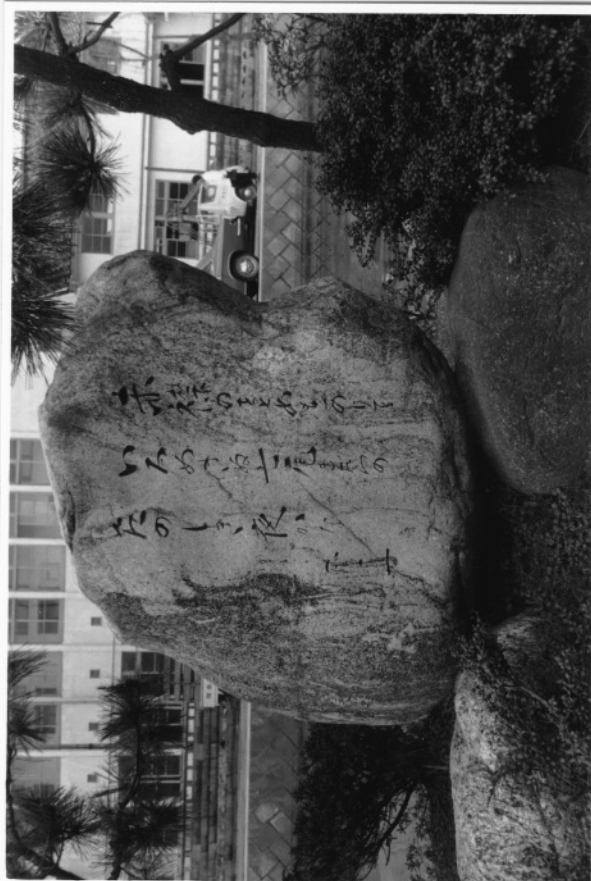
昭和三十一年四月建之

七尾まだら保存会

聖一

略歴

舟橋聖一 明治三十七年十二月二十五日 東京本所横綱町に生まれる 東大国文科卒 昭和五十二年一月十三日歿す 享年七十二歳 法名 文篤院殿青海秀聖居士 墓は東京都府中市多磨町 多磨霊園 三区三種六側三番にある



舟橋聖一歌碑

所在地 石川県七尾市府中町 川端通り (御祓(みそぎ)川畔)

赤襟のをとめもありて
いろめきぬ七尾まだらの
たのしき夜かな

聖 一

左側面

昭和三十七年四月建之

七尾まだら保存会

略歴

舟橋聖一 明治37年12月25日 東京本所区横網町に生まれる 東大国文科卒
昭和51年1月13日歿す 享年71歳 法名 文篤院殿青海秀聖居士 墓は東京都
府中市多磨町 多磨霊園 3区2種6側3番にある





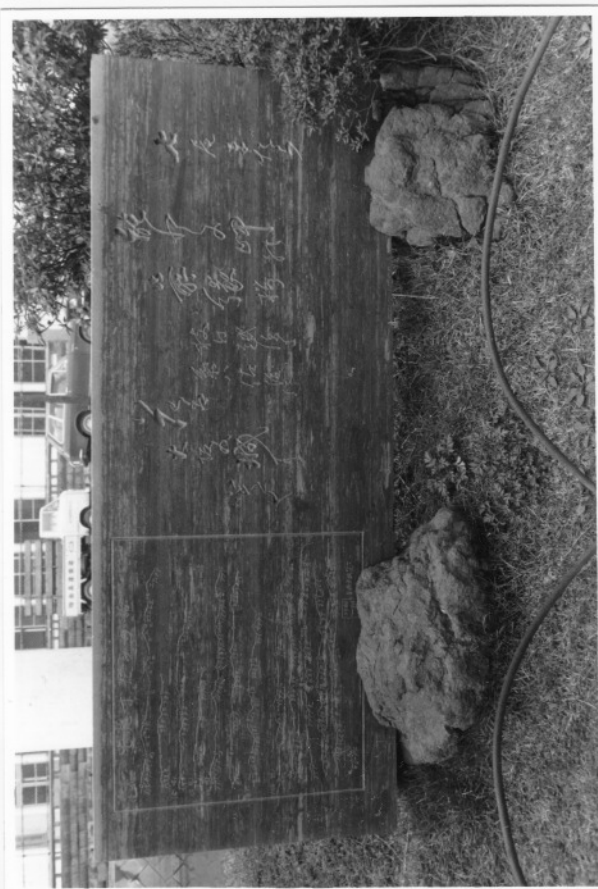
七尾まだら記念碑

所在地 石川県七尾市府中町 川端通り(御抜川畔)

七尾市無形文化財指定記念

七尾まだらの碑

昭和三十六年文化の日 西條八十誌



右側面

昭和三十五年 七尾市文化賞受賞
昭和三十五年 七尾市無形文化財指定

左側面

七尾市出身小田原市在住
寄附 坂上重守
昭和三十七年四月
建之 七尾まだら保存会

副碑

七尾まだら

能登の岬の
御所縁櫻
枝は越後に
葉は佐渡に
花は
大阪の城に
咲く

面

譜

碑陰

昭和廿年七月七日建之
七尾まだら保存会
本谷辰次書



舟橋・七尾まだら記念碑

所在地 石川県七尾市府中町 川端通り(御祓川畔)

七尾市無形文化財指定記念

七尾まだらの碑

昭和三十六年文化の日 西條八十誌

右側面

昭和三十五年 七尾市文化賞受賞

昭和三十六年 七尾市無形文化財指定

左側面

七尾市出身小田原市在住

寄附 坂上重守

昭和三十七年四月

建之 七尾まだら保存会

副碑

七尾まだら

能登の岬の

御所縁櫻

枝は越後に

葉は佐渡に

花は

大阪の城に

咲く

譜面

碑陰

昭和卅八年七月七日建之

七尾まだら保存会

本谷辰次書

七尾まはらの碑

(津川(越前)と藤沢川 河川)



七尾まはらの碑



七尾まはらの碑

大正十一年

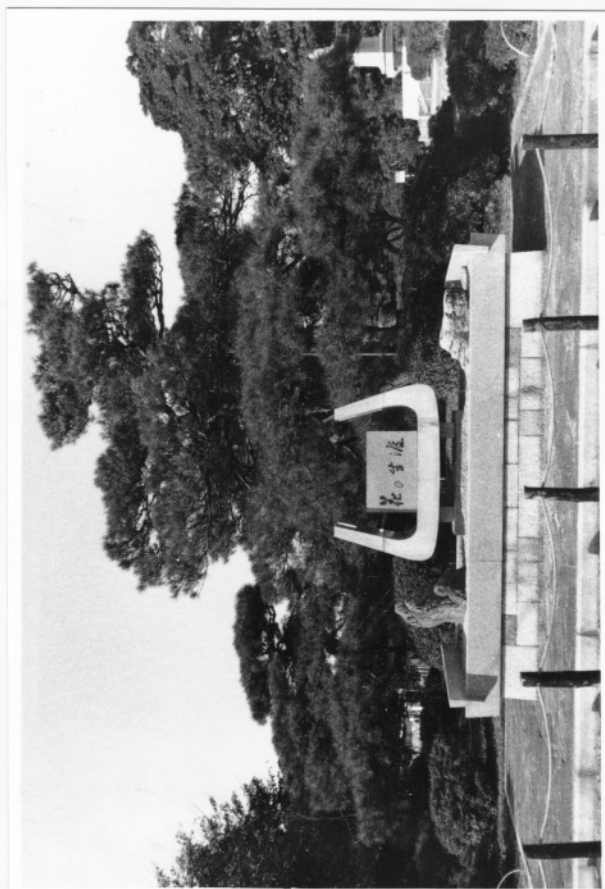


七尾まはらの碑

花の生涯

舟橋聖一記念碑

所在地 滋賀県彦根市金亀町 金亀児童公園内



碑陰

開国の英断を下した 大老井伊直弼の
波瀾に富んだ一生をえがいた花の生涯
は毎日新聞に連載されて以来映画演劇
等を通しましたNHKテレビドラマによ
つて世の絶賛を博した
この作品が人々の直弼公に対するイ
メージに大きな影響と深い感銘を与へ
更にわが彦根の地が広く全国に紹介さ
れたことを記念して建立したものである

昭和39年 10月 彦根市

舟橋聖一記念碑

所在地 滋賀県彦根市金亀町 金亀児童公園内

花の生涯 (横書き)

碑陰 (横書き)

開国の英断を下した 大老井伊直弼の

舟橋聖一氏原作

波瀾に富んだ一生をえがいた花の生涯

は毎日新聞に連載されて以来映画演劇

等を通したNHKテレビドラマによ

って世の絶賛を博した

この作品が人々の直弼公に対する イ

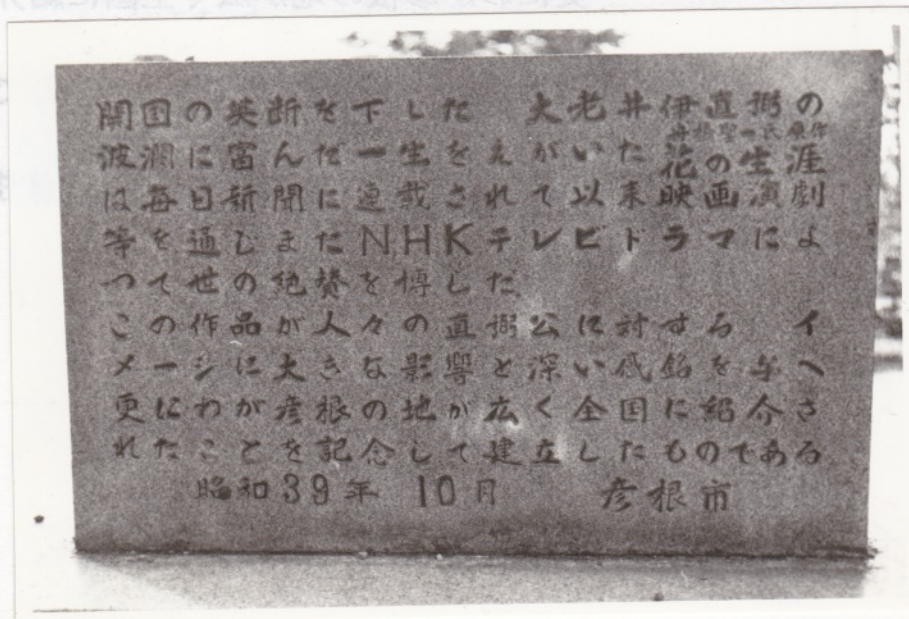
メージに大きな影響と深い感銘を与へ

更にわが彦根の地が広く全国に紹介さ

れたことを記念して建立したものである

昭和 39 年 10 月

彦根市



新根城之水濠 ←



多田園 ↓



新根城大守閣 ←



禾秤櫓 ←



新根城大守閣 ↑

新根城大守閣 (多田園) ↑

京都、天守閣 ↓



大守閣 (京都府京町) ↓



大守閣 ↓



大守閣 (京都府京町) ↓



船山 馨文学碑

所在地 北海道静内郡静内町 二十間道路 桜並木通り

勢

登

お

春の訪れとともに、お登勢
はふたたび木を伐り、根株を
掘り起し、草を焼き土を耕す
毎日のなかに埋没して行つた
静内から新冠にかけては桜
が多いが、いつ花が咲いて、
いつ散つたかも、お登勢は気
づかずに過した。

碑陰

文字なし

船山 馨



船山馨文学碑

所在地 北海道日高郡ひだか町(静内)御園高台 二十間道路 桜並木通り

お登勢 (横書き)

(この下に縦書きで次の文章が書かれている)

春の訪れとともに、お登勢
はふたたび木を伐り、根株を
掘り起し、草を焼き土を耕す
毎日のなかに埋没して行った
静内から新冠にかけては桜
が多いが、いつ花が咲いて、
いつ散ったかも、お登勢は気
づかずに過した。

船山馨

碑陰

文字なし

嶺山藝文學報



船山 馨文学碑

所在地 兵庫県洲本市本町4-1 厳島神社境内

お登勢之碑

船山 馨

碑陰

文字なし

略歴

船山 馨 大正三年三月三十一日 札幌市に生まれる 明治大学商学部中退 昭和
五十六年八月五日歿す 享年六十七歳 墓は東京都中野区上高田一二十二 竜興寺墓
地にある



船山 馨 文学 碑

所在地 兵庫県洲本市本町 4-1 厳島神社境内

お 登 勢 之 碑

船 山 馨

碑陰

文字なし

略歴

船山 馨 大正 3 年 3 月 31 日 札幌市に生まれる 明治大学商学部中退
昭和 56 年 8 月 5 日歿す 享年 67 歳 墓は東京都中野区上高田 1-2-12
龍興寺墓地にある



明治初年、洲本で起つた所謂「庚午事件」がもとで稲田家一族が、北海道に開拓のため移住するに際し、日頃崇敬していた稲田家の守護神「稻基神社」の碑を残し渡道し、北海道静内に畜祀し、遠く故郷を偲びつゝ、今の静内町の基を礎いた。

昨年洲本ライオンズクラブと、静内ライオンズクラブが姉妹提携を結んだのを機に、この稻基神社を中心に、静内ライオンズクラブから送られてきたエゾツバ、白樺、ライラックなどを植え小公園とし、淡路と静内の先人たちの遺功を偲び、末長き友情を結びたい。

お登勢はこの事件をモデルにした船山馨先生の小説「お登勢」の主人公である。

昭和五十一年十二月吉日
洲本ライオンズクラブ

ブルーノ・タウト文学碑

所在地 秋田県大曲市大町二丁目 「旅館丸子川」隣

大曲は小さな町である。
ここにも雪が降り積って
いる。

最も美しいのは、橋の上
から眺めた月夜の景色だ。

これは景色でなくて本統
の絵そのものだ、私はこれ
ほど美しい雪景をまだ見た
ことがない。

この景色の特色をなすも
のは柳とヒマラヤ杉である。

一九三六・二・七

ブルーノ・タウト

(日本美の最発見) より

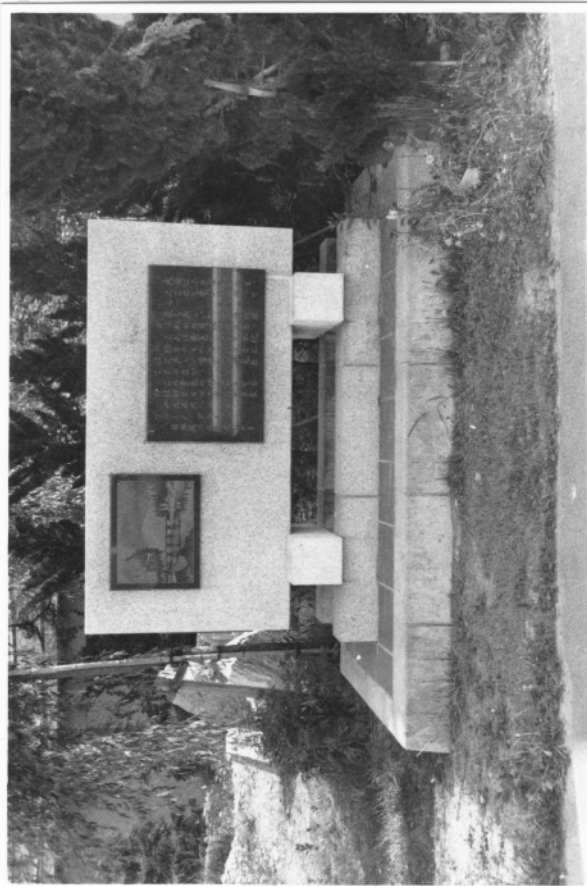
左側面

昭和五十年五月三日建立

大曲市長 最上源之助

渡辺賢次郎書

その
雪景の
図



ブルーノ・タウト文学碑

所在地 秋田県大仙市大町2丁目 「旅館丸子川」隣

大曲は小さな町である。
ここにも雪が降り積っている。

最も美しいのは、橋の上から眺めた月夜の景色だ。

これは景色でなくて本統の絵そのものだ。私はこれほど美しい雪景をまだ見たことがない。

この景色の特色をなすものは柳とヒマラヤ杉である。

一九三六・二・七

ブルーノ・タウト

(日本美の再発見)より

その
雪景色
の図



左側面

昭和五十年五月三日建立

大曲市長 最上源之助

渡辺賢次郎書

←
碑の
前
から
の
景
色



文イウサ・ハーバ

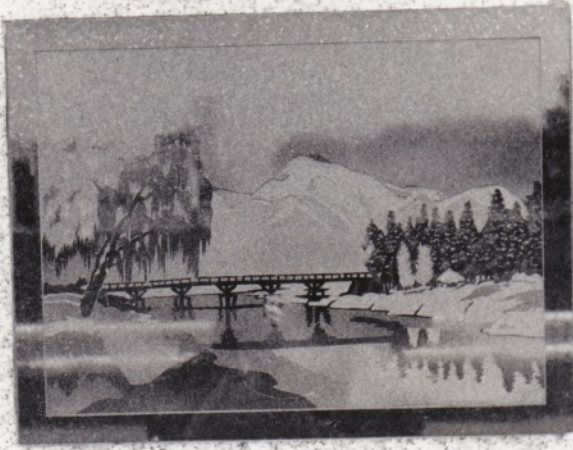


日
の
静
け
な
庭
園
に
あ
る
石
の
建
物

おきか
るもの

のし

のき
の景観



立像日三民武甲十五
樹之無土景 吳市南大
香酒大響田池

大曲は小さな町である。
ここにも雪が降り積も
っている。
最も美しいのは、橋の上
から眺めた月夜の景色だ。
これは景色でなくて本統
の絵そのものだ、私はこれ
ほど美しい雪景をまだ見た
ことがない。
この景色の特色をなすも
のは柳とヒマラヤ杉である。
一九三六・二・七
フルーノ・タウト
(日本美の再発見)より

ブルーノ・タウト記念碑

所在地 群馬県高崎市高鼻町三 少林山達磨寺境内

ICH LIEBE DIE
JAPANISCHE
KULTUR

24.
8.
34

Bruno Taut

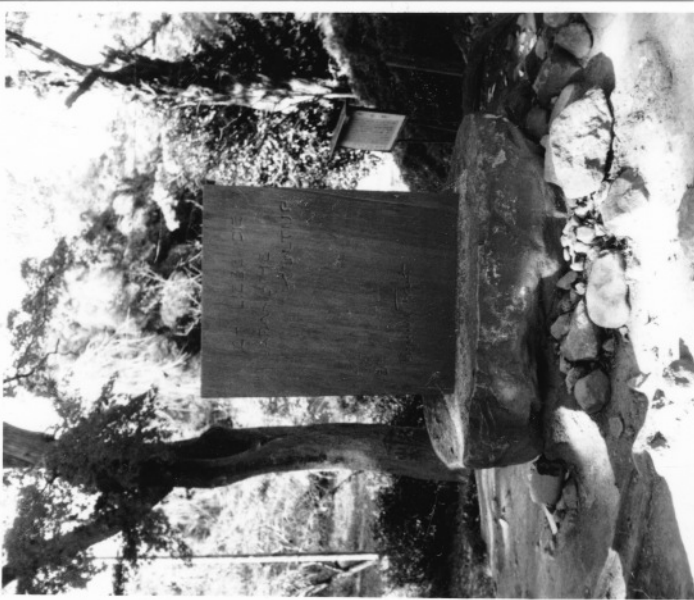
碑陰

ブルーノ・タウト教授は
一九三四年七月から一九三六年
十月までここに住まれてこの
地方の工芸を指導されて
昭和十四年十二月二十四日

小井上房一郎
紅書

略歴

ブルーノ・タウト 一八八〇年(明治十三年)五月四日 ドイツのケーニヒスベルク
に生まれる ケーニヒスベルク高等建築専門学校卒業 一九三六年(昭和十三年)
十二月二十四日歿す 享年五十六歳



ブルーノ・タウト記念碑

所在地 群馬県高崎市高鼻町 296 少林山達磨寺境内

ICH LIEBE DIE

JAPANISCHE

KULTUR

24.

8.

34

Bruno Taut (以上横書き)

碑陰(縦書き)

ブルーノ、タウト教授は
一九三四年七月から一九三六年
十月まで、ここに住まれてこの
地方の工芸を指導されて
ゐた

昭和十四年十二月二十四日

井上房一郎

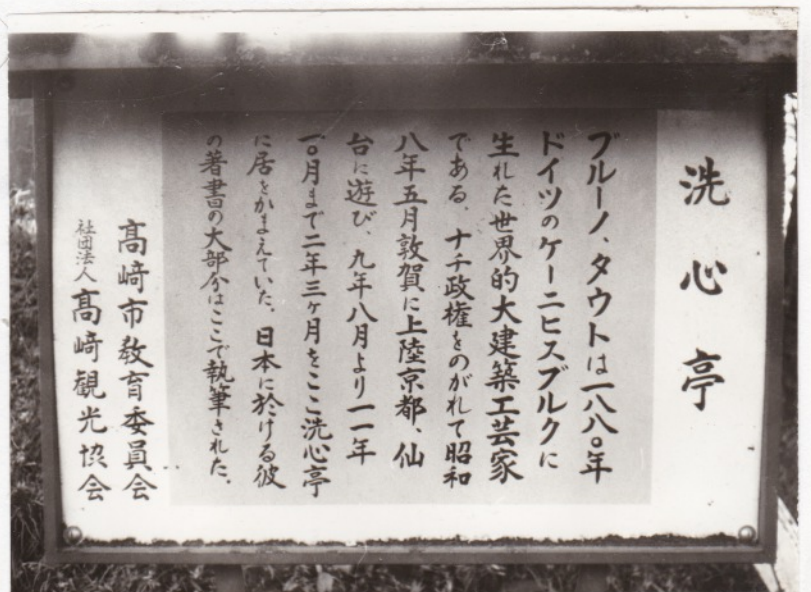
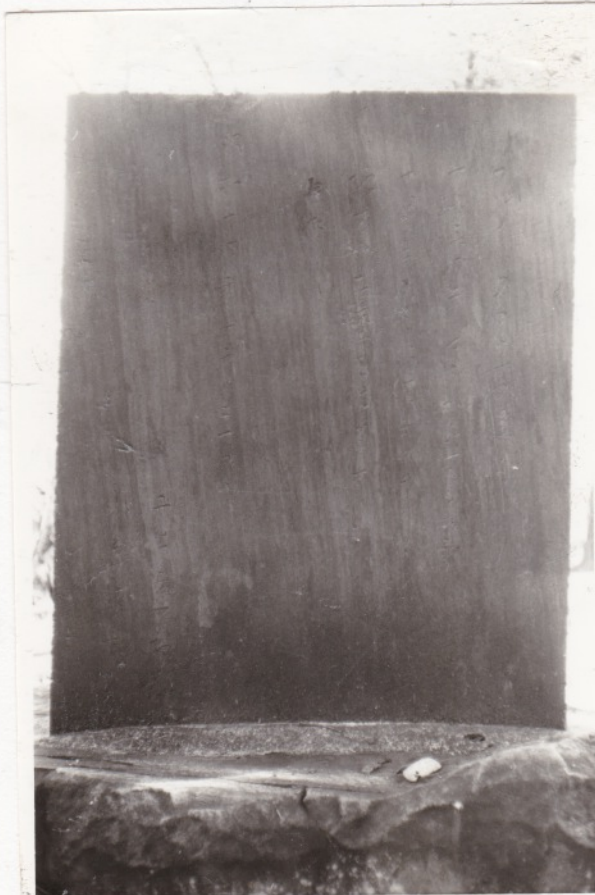
小原 紅書

略歴

ブルーノ・タウト 1880年(明治13年)5月4日 ドイツのケーニヒスベルク
に生まれる ケーニヒスベルク高等建築専門学校卒業 1938年(昭和13年)
12月24日歿す 享年58歳



碑陰
←



北條秀司句碑

所在地 東京都中央区佃二丁目 児童遊園内

雪降れば

佃は古き

江戸の島

秀司

劇作家北條秀司は佃島が大好きであつた。俳優花柳章太郎も佃島が大好きであつた。佃島をあるき、大川の渡船をたのしんだ。その結晶として「佃の渡し」の芝居作りを企画した。それが新昭和三十三年十二月の「橋演舞場」に脚光を浴び、劇団新派の財産を浴び、殖やし、北條の代表作をまた一つ世に残すことになつた。

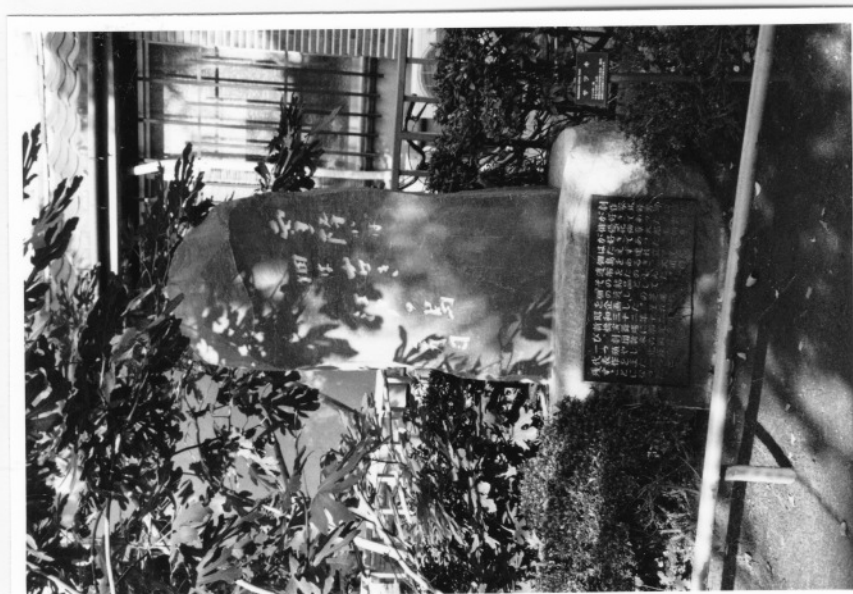
碑陰

米寿記念碑建設委員会

一九九一年八月建之
発起人 (五士)

齋坂小岡伊 藤 朝公 昭平 吾輔 永長 谷川 栄一 臣
正 三 松尾 波傳 江

藤間陽一郎
(住吉講・講元)



北條秀司句碑

所在地 東京都中央区佃 1-2-10 児童公園内

雪 降 れ ば

佃 は 古 き

江 戸 の 島

秀 司

(この縦書きの句の下に やはり縦書きで下の文章がある)

劇作家北條秀司は佃島
が好きであった。新派
俳優花柳章太郎も佃島
が好きであった。二人
はたえず連れ立って、
佃島をあるき、大川の
渡船をたのしんだ。
その結果として、
「佃の渡し」の芝居作り
を企画した。それが
昭和三十二年十二月の
新橋演舞場に脚光を浴
び、劇団新派の財産を
一つ殖やし、北條の
代表作をまた一つ世に
残すことになった。

碑陰

米 寿 記 念 碑 建 設 委 員 会

一九九一年八月建之

発起人 (五十音順)

伊 藤 邦 輔

永 山 武 臣

岡 副 昭 吾

長谷川 栄一

小 林 公 平

松 岡 功

坂 本 朝 一

松尾 波儔江

齋 藤 正

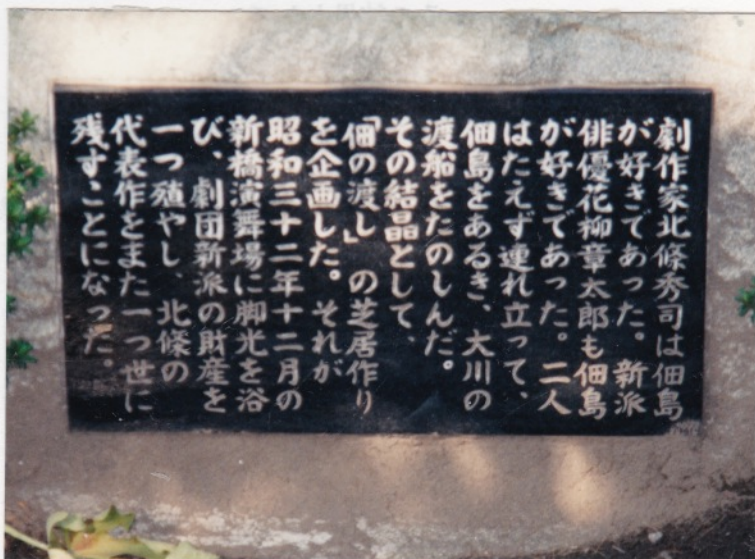
三 田 政 吉

藤 間 陽 一 郎

(住吉講・講元)



丁の立派な大木が
川大、あるべき場所
、その大木は



細井魚袋歌碑

所在地 千葉県木更津市 太田山公園頂上

石の上には
我は
魚袋
秋風をまなこ
に
ためて
坐り
けり
し
ろく
かわけ
る

碑陰

歌人細井魚袋明治二十二年一月二
日木更津市高柳に生る本名子之助
と稱す幼少の頃より歌道に親しみ
柴舟牧水夕暮等と共に其の生涯を
短歌に終始し爾來年あり大正十二
年真人社を創立斯道の興隆新人の
育成に心を注ぎ幾多の功績を遺す
第二次世界大戦終結と共に官を辭
し生地小櫃川畔に隠棲し房総の萬
葉研究に専念す歌風は高雅幽深清
氣横溢生活ある處必ず独自の歌を
生みその風韻正に短歌の精華たり
茲に人間魚袋を識る者相圖りその
歌詠と筆迹とを後昆に傳へむとし
郷土景勝の地を選び此の碑をこゝ
に建つ

昭和三年十二月二日

東京大學名譽教授 久松潜一撰
文學博士
郷土史研究家歌人 市山盛雄書
細井魚袋歌碑建設會

略歴

細井魚袋 本名 子之助 明治三
十二年一月二日 千葉県君津郡岩
根村高柳に生まれる 木更津
中学卒業 昭和三十七年十二月二日
歿す 享年七十三歳



細井魚袋歌碑

所在地 千葉県木更津市 太田山公園 頂上

石の
上
に
我は
魚袋
秋風をまなこ
に
ためて
坐り
けり
し
ろく
かわけ
る

碑陰

歌人細井魚袋明治二十二年一月二
日木更津市高柳に生る本名子之助
と稱す幼少の頃より歌道に親しみ
柴舟牧水夕暮等と共に其の生涯を
短歌に終始し爾來年あり大正十二
年真人社を創立斯道の興隆新人の
育成に心を注ぎ幾多の功績を遺す
第二次世界大戰集結と共に官を辭
し生地小櫃川畔に隱棲し房総の萬
葉研究に専念す歌風は高雅幽深清
氣横溢生活ある處必ず獨自の歌を
生みその風韻正に短歌の精華たり
茲に人間魚袋を識る者相圖りその
歌詠と筆迹とを後昆に傳へむとし
郷土景勝の地を選び此の碑をこゝ
に建つ

昭和三十三年十一月二日

東京大學名譽教授文學博士 久松潜一撰

郷土史研究家 歌人 市山盛雄書

細井魚袋歌碑建設會

略歴

細井魚袋 本名 子之助 明治 22 年 1 月 2 日 千葉県君津郡岩根村高柳に
生まれる 木更津中学卒業 昭和 37 年 11 月 2 日歿す 享年 73 歳



細川雄太郎童謡碑

所在地 滋賀県蒲生郡日野町木津 国道三〇七号より二〇〇メートル

あの子はたあれ

細川雄太郎詩

あの子はたあれ たれでしょね

なんなんなつめの 花の下

お人形さんと あそんでる

かわいいみよちゃんじゃないでしょか

あの子はたあれ たれでしょね

こんこん小やぶの 細道を

竹馬こっこで あそんでる

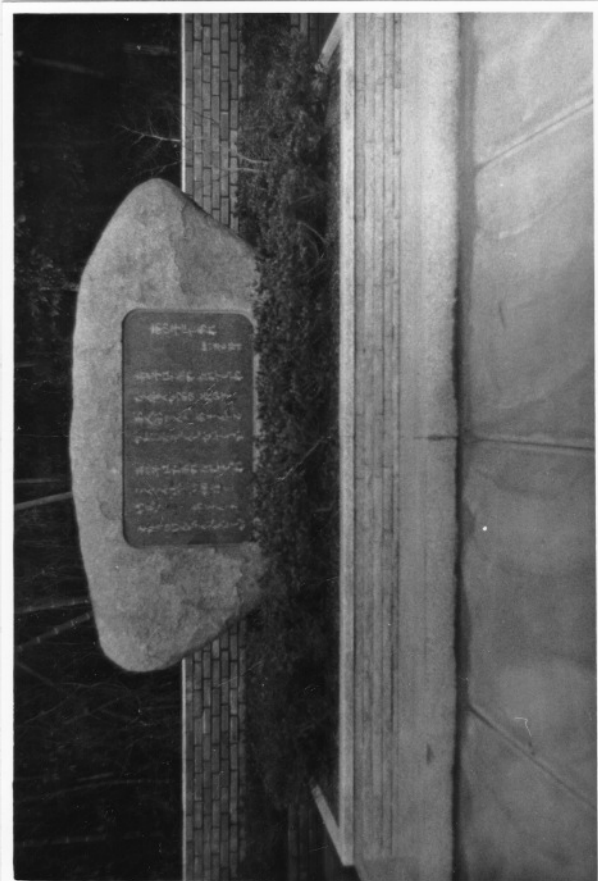
となりのけんちゃんじゃないでしょか

碑陰

昭和五十六年八月吉日建立

有志五百九拾余名

関谷新吾書



細川雄太郎童謡碑

所在地 滋賀県蒲生郡日野町木津 国道 307 号グリーンバイパス沿い

あの子はたあれ

細川雄太郎 詩

あの子はたあれ たれでしょね

なんなんなつめの 花の下

お人形さんと あそんでる

かわいいみよちゃんじゃないでしょか

あの子はたあれ たれでしょね

こんこん小やぶの 細道を

竹馬ごっこで あそんでる

となりのけんちゃんじゃないでしょか

碑陰

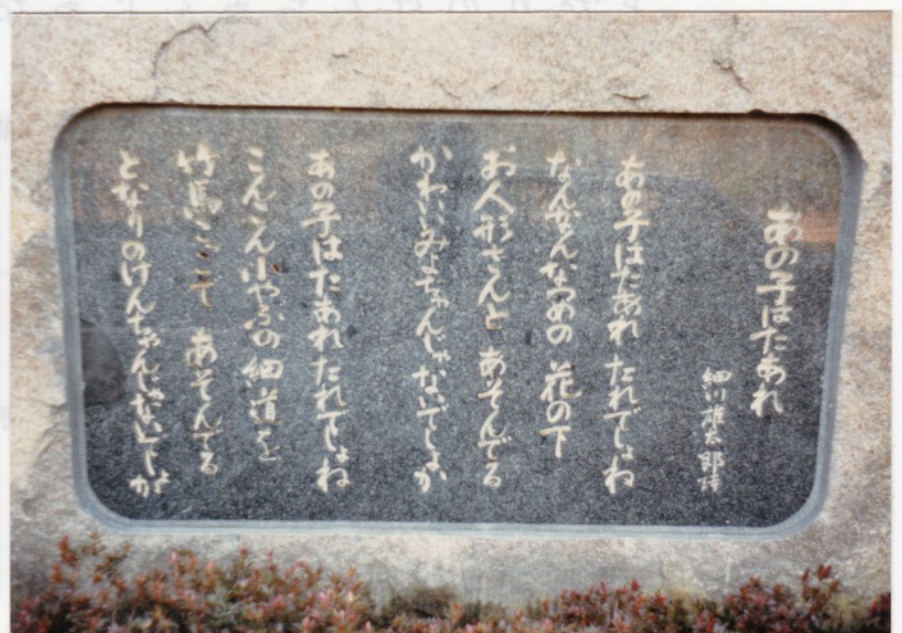
昭和五十八年八月吉日建立

有志五百九拾余名

関谷新吾 書

略歴

細川雄太郎 大正 3 年 滋賀県蒲生郡日野町に生まれる 小学校卒 平成
11 年 2 月 21 日歿す 享年 84 歳



細見綾子句碑

所在地 石川県金沢市尾山町十二 尾山神社境内

鵝頭を二尺はなれもの思ふ 綾子

碑陰

昭和四十六年五月十六日之を建つ

風 二十五周年記念事業実行委員

西村公鳳

中西舗土

椎木鳩舎

高島筈雄

柏 楨

他



細見綾子句碑

所在地 石川県金沢市尾山町 11-1 尾山神社境内

鶏頭を三尺はなれもの思ふ 綾子

碑陰

昭和四十六年五月十六日之を建つ

風 二十五周年記念事業実行委員

西村公鳳

中西舗土

椎木鳩舎

高島筭雄

柏 禎

他

略歴

細見綾子 明治 40 年 3 月 31 日 兵庫県氷上郡芦田村(現 青垣町)に生まれる
日本女子大國文科卒業 昭和 22 年 11 月沢木欣一と結婚 平成 9 年 9 月 6 日
歿す 享年 90 歳



(金沢市所収二二一五)



石川近代文学館(旧石川高等学校本館)



奥山神社（三枚）風景



奥山神社神苑 ←

穂積 忠歌碑

所在地 静岡県伊東市大室山 さくらの里公園内 風穴のそば

忠

碑陰

大室山に 落暉の

文字なし

餘光しづむとき

胸ふかく返る

ものゝひそけさ

妻 鈴子書

副碑

穂積忠先生は 明治三十四年田方郡田中村（現大仁町）に生まれ韮山中学在学中より北原白秋に師事し 歌人の道に入りました。後に伊東町立伊東高等女学校第二代校長として多くの子女を教育するかたわら なごやかな伊豆の気候風土をもちこんだ数多くの歌を詠み代表作としては歌集「雪祭」「叢」があります。今回市制三十周年記念事業「大室山麓桜の里」建設にあたり 先生の遺徳を偲ぶとともにこの地を詠んだ歌碑を建立し、ここを訪れる人の心を慰めることができれば幸いです。
昭和五三年五月三十一日

一九七七年度社団法人日本青年会議所

静岡ブロック協議会

第 回静岡ブロック会員大会記念

主管 伊東青年会議所

略歴

穂積 忠（きよし） 明治三十四年三月十七日 静岡県田方郡田中村吉田（現大仁町）に生まれる 国学院大学高師部卒業 昭和二十九年二月七日歿す 享年五十二歳



穂積 忠 歌 碑

所在地 静岡県伊東市大室山 さくらの里公園内 風穴のそば

忠

大 室 山 に 落 暉 の

餘 光 し づ む と き

胸 ふ か く 返 る

も の へ ひ そ け さ

妻 鈴 子 書

碑陰

文字なし

副碑

穂積^{きよし}忠先生は 明治三十四年田方郡田中村(現大仁町)に生まれ菰山中学在学中より北原白秋に師事し 歌人の道に入りました 後に伊東町立伊東高等女学校第二代校長として多くの子女を教育するかたわら なごやかな伊豆の気候風土をもちこんだ数多くの歌を詠み代表作としては歌集「雪祭」「^{くさむら}叢」があります 今回市制三十周年記念事業“大室山麓桜の里”建設にあたり 先生の遺徳を偲ぶとともにこの地を詠んだ歌碑を建立し ここを訪れる人の心を慰めることができれば幸いです
昭和五十二年五月二十二日

一九七七年度社団法人日本青年会議所

静岡ブロック協議会

第10回静岡ブロック会員大会記念

主管 伊東青年会議所

大室山↓



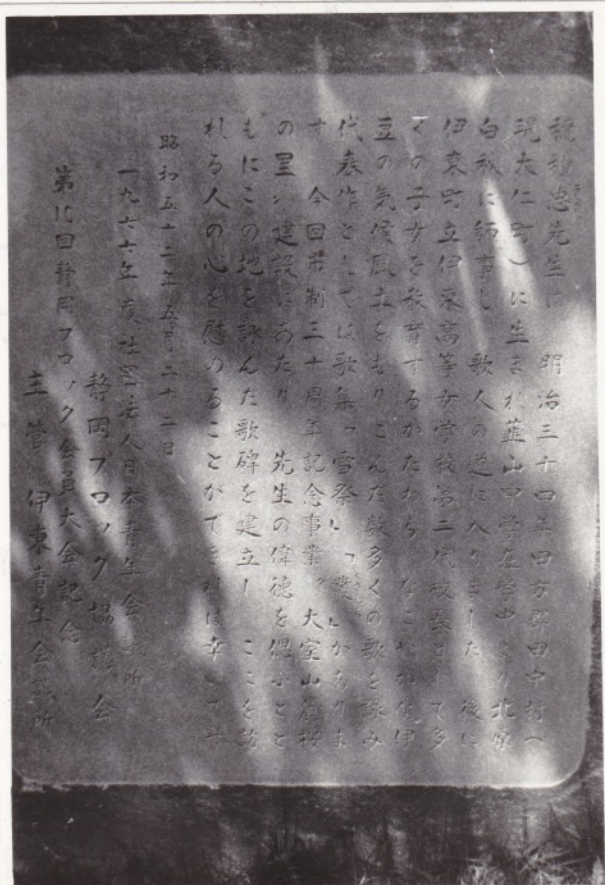
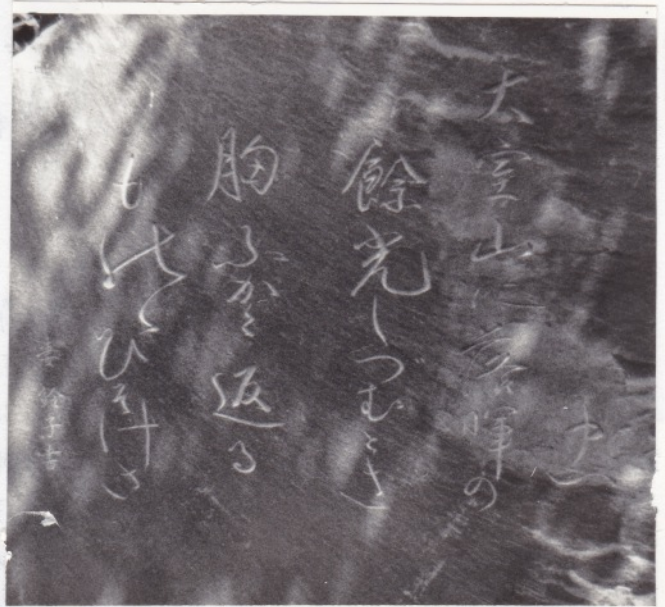
↑風穴



蘇

道

大



穂積 忠歌碑

所在地 静岡県田方郡大仁町田京区 広瀬神社隣 広瀬公園内

山茶花の

霜相てる朝を

たちいで

富士に息
づく

伊豆人
われは

忠

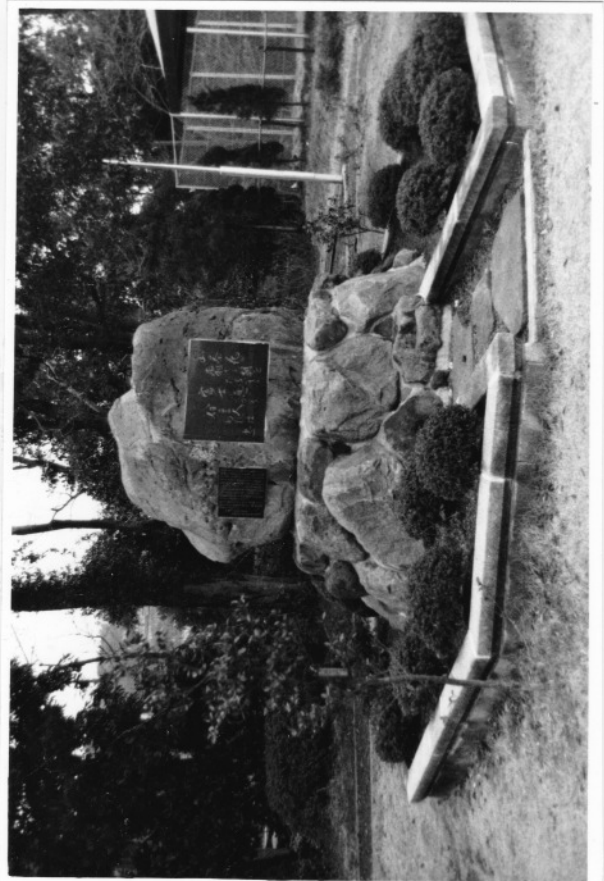
碑陰

文字なし

穂積 忠氏は六亮氏の長男として
明治三四年大仁町吉田に生まれ幼
少の頃より短歌や俳句を学ばれ
山中学校を国学院大学に進み歌は
北原白秋先生学問は折口信夫先生
に師事歌の道には現三島北韭山
高等学校教諭伊東三島南高等学校
長を歴任し教育界に貢献された
歌集雪祭叢を出版昭和二十九年五
十三才で急逝された
伊豆の歌人としてその業績を永く
称えるため有志相計り顕彰歌碑
の建立となった

昭和五十六年十二月三日

歌碑建立発起人会之建



穂積忠歌碑

所在地 静岡県伊豆の国市大仁町田京区 広瀬神社隣 広瀬公園内

山茶花の
霜てる朝を
たちいでゝ
富士に息
づく
伊豆人
われは
忠



碑陰

文字なし

穂積忠氏は六亮氏の長男として明治三十四年大仁町吉田に生まれ幼少の頃より短歌や俳句を学ばれ菰山中学校から国学院大学に進み歌は北原白秋先生学問は折口信夫先生に師事歌の道にはいられ現三島北菰山高等学校教諭伊東三島南高等学校長を歴任し教育界に貢献された歌集雪祭叢を出版昭和二十九年五十三才で急逝された伊豆の歌人として其の業績を永く称えるため有志相計り顕彰歌碑の建立となった

昭和五十六年十一月三日

歌碑建立発起人会之建



歌碑

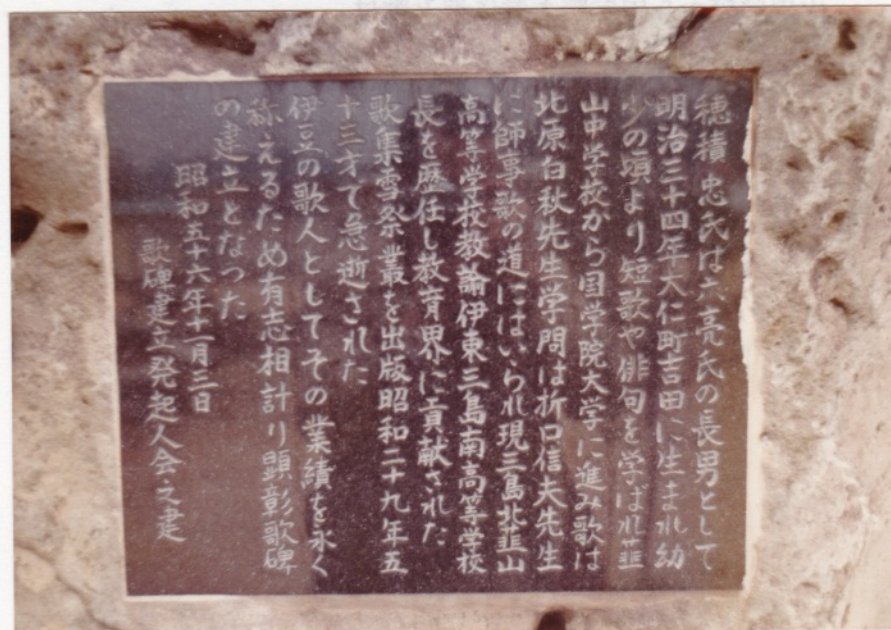
山

山

山

山

山



總務 忠氏は六亮氏の長男として
明治三十四年大仁町吉田に生まれ幼
少の頃より短歌や俳句を学ばれ山
中学校から国学院大学に進み歌は
北原白秋先生学問は折口信夫先生
に師事歌の道にはいられ現三島北山
高等学校教授諭伊東三島南高等學校
長を歴任し教育界に貢献された
歌集雪祭最を出版昭和二十九年五
十三才で急逝された
伊豆の歌人としてその業績を永く
称えるため有志相計り顕彰歌碑
の建立となつた

昭和五十六年十月三日
歌碑建立発起人会 会長

穂積 忠歌碑

所在地 静岡県田方郡天城湯ヶ島町 浄蓮の滝バス停近く

忠

春もや、

日かげさ

ひしく

なりに

けり

そはわさび

田の

逃水の

おと

碑陰

伊豆の人穂積忠、北原白秋 折口信夫の門に出で声望たかく、夙に「伊豆のうたびと」の名を成す。こよなく伊豆を賞でては詠じ、誇りては歌う。わけても天城風土の愛慕と讃仰に凝る絶唱幾つ——ゆかりの地にゆかりのものら相寄り、碑のおもてにその一つ

春もや、日かげさひしくなりにけり

沢わさび田の逃水のおと

を彫りとどめて、心とわにふるさとに睦む。

忠が歌集「雪祭」序歌に寄せて、師白秋、春天城雪の鎮めと伊豆びとは何をもて遊ぶ歌をもて遊ぶ

昭和廿八年十二月

歌碑建設委員会

設計 東京 和田金剛
施工 澤尻 鈴木和雄



穂積忠歌碑

所在地 静岡県伊豆市天城湯ヶ島町 浄蓮の滝バス停近く

忠
春もやゝ
日かけさ
ひしく
なりに
けり

さはわさひ
田の
逃水の
おと

碑陰

伊豆の人穂積忠、北原白秋 折口信夫の門
に出で声望たかく、夙に「伊豆のうたびと」
の名を成す。こよなく伊豆を賞でては詠じ、
誇りては歌う。わけても天城風土の愛慕と讃
仰に凝る絶唱幾つ——ゆかりの地にゆかりの
ものら相寄り、碑のおもてにその一つ

春もやゝ日かけさひしくなりにけり
沢わさび田の逃水のおと

を彫りとどめて、心とわにふるさとに睦む。
忠が歌集「雪祭」序歌に寄せて、師白秋、
春天城雪の鎮めと伊豆びとは何をもて遊ぶ
歌をもて遊ぶ

昭和卅八年十二月

歌碑建設委員会

設計 東京 和田金剛

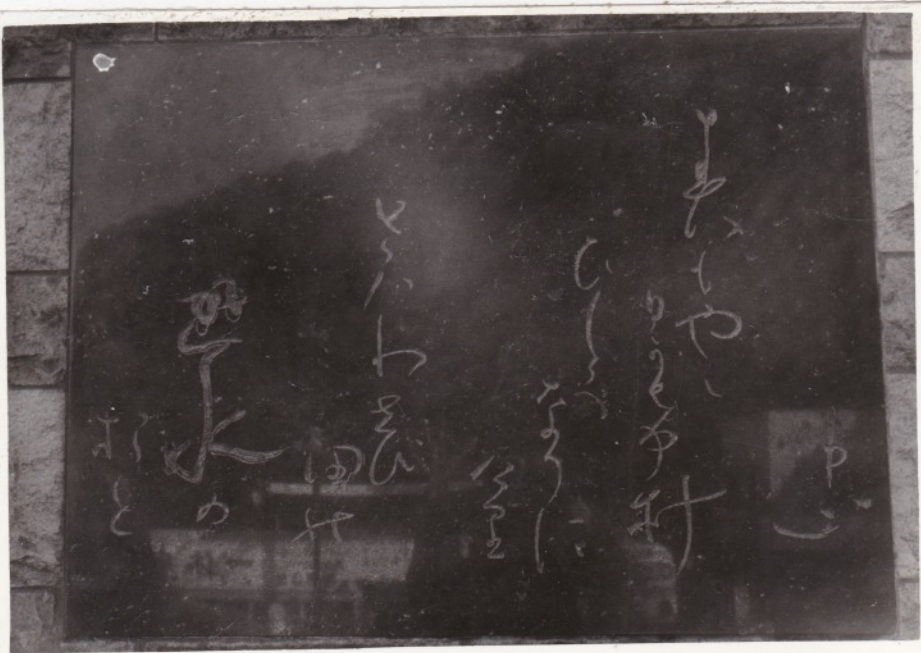
施工 沼津石材 鈴木和雄



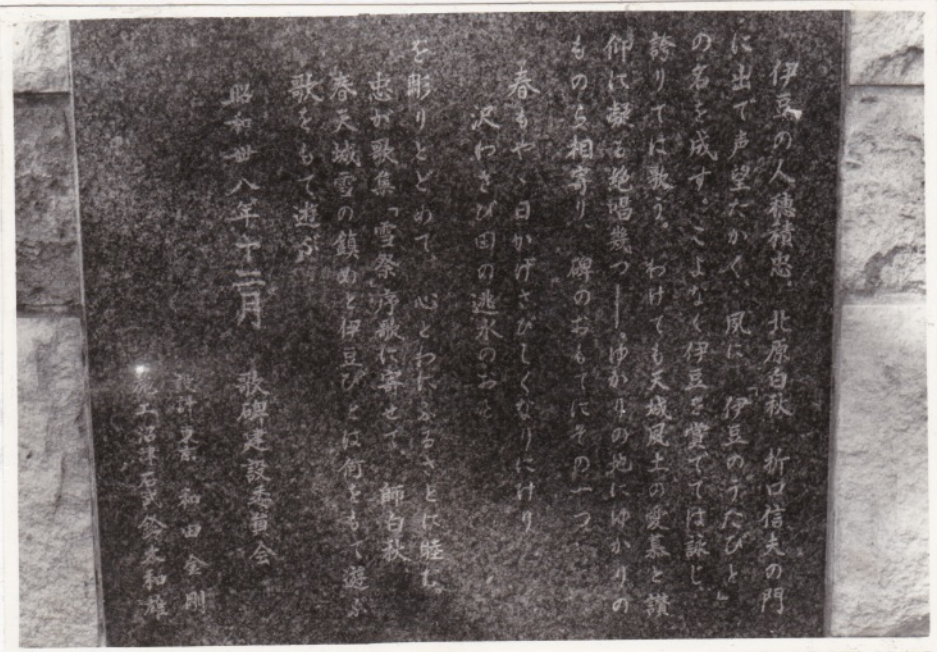
蘇 蘇

東海

春



伊豆の人穂積忠 北原白秋 折口信夫の門



伊豆の人穂積忠 北原白秋 折口信夫の門

に出て声望たかき 風は 伊豆のうたびと

の名を成すこよなく伊豆を賞ては詠じ

誇りては教ふ わけても天城風土の愛慕と讃

仰はれて絶唱幾つーゆかりの地にゆかりの

ものゝ相寄り 碑のおもてにその一つ

春もや、日かげさがしくなりけり

波にさび田の逃水のおも

を彫りとどめて 心とわらふささとは睦し

忠が歌集「雪祭」静寂に寄せて 師白秋

春天城雪の鎮めと伊豆びとは何をもて遊ぶ

歌をもて遊ぶ

昭和廿八年十二月 歌碑建設委員会

設計 東原 初田 金剛
施工 沼津 石武 鈴木 和雄

穂積 忠歌碑

所在地 静岡県三島市 桜川畔（水上通り）

穂 積 忠

町なかに 富士の地下水 湧きわきて

冬あたたかに こむる水電

歌集「^{こむる}叢」（昭和三十年刊）より

碑陰

文字なし



穂積 忠 歌 碑

所在地 静岡県三島市 桜川畔（水上通り）

穂 積 忠

町 な か に 富 士 の 地 下 水 湧 き わ き て
冬 あ た た か に こ む る 水 靄

歌集「^{くさむら}叢」（昭和三十年刊）より

碑陰

文字なし

略歴

穂積 忠(きよし) 明治 34 年 3 月 17 日 静岡県田方郡田中村吉田(現大仁町)
に生れる 国学院大学卒 昭和 29 年 2 月 27 日歿す 享年 52 歳



堀内民一歌碑

所在地 奈良県北葛城郡当麻町染野 石光寺境内

ふたかみの雪の
みてる
の

寒牡丹ひと、
寄り見む

雪の底より

堀内民一

碑陰

堀内民一先生は大和に生れ大和に育ったすぐれた万葉学者であり歌人でもありましたこの天の二上のあたりは先生のもっともたふとび愛された地でたびたび訪れてこの地の靈氣に触れられ先生の数々の業績と作品の源となつてゐます特にこの石光寺の寒牡丹のお歌は先生の二上山に寄せる鎮魂の詩情を深く湛へて心にしみ入る秀歌でありますここに一首を刻してこの地に建て永く先生を偲ぶよすがといたします

昭和五年十二月

花梨短歌会

近畿追空会

友人有志

略歴

堀内民一 大正元年八月三十日 奈良
県北葛城郡河合村佐味田に生ま
れる 国学院大学国文科卒 昭和
四十六年八月十五日歿す 享年五十八歳
(後十五日で五十九歳)



堀内民一歌碑

所在地 奈良県葛城市当麻町染野 石光寺境内

ふたかみの雪の

みてら

の

寒牡丹ひとつ

寄り見む

雪の底より

堀内民一

碑陰 堀内民一先生は大和に生れ大和に育ったすぐれた万葉学者であり歌人でもありましたこの天の二上のあたりは先生のもっともたふとび愛された地でたびたび訪れてこの地の靈氣に触れられ先生の数々の業績と作品の源となつてみます特にこの石光寺の寒牡丹のお歌は先生の二上山に寄せる鎮魂の詩情を深く湛へて心にしみ入る秀歌でありますここに一首を刻してこの地に建て永く先生を偲ぶよすがといたします

昭和五十二年十一月 花梨短歌会

近畿迢空会

友人有志

略歴

堀内民一 大正元年8月30日 奈良県北葛城郡河合村佐味田に生まれる
国学院大学国文科卒 昭和46年8月15日歿す 享年58歳



歌

雨

ふ

寒

雪の道

一月内閣

内閣

歌

雪

道

雪

道

雪

道

雪

道

雪

道

雪

道

雪

道

雪

道

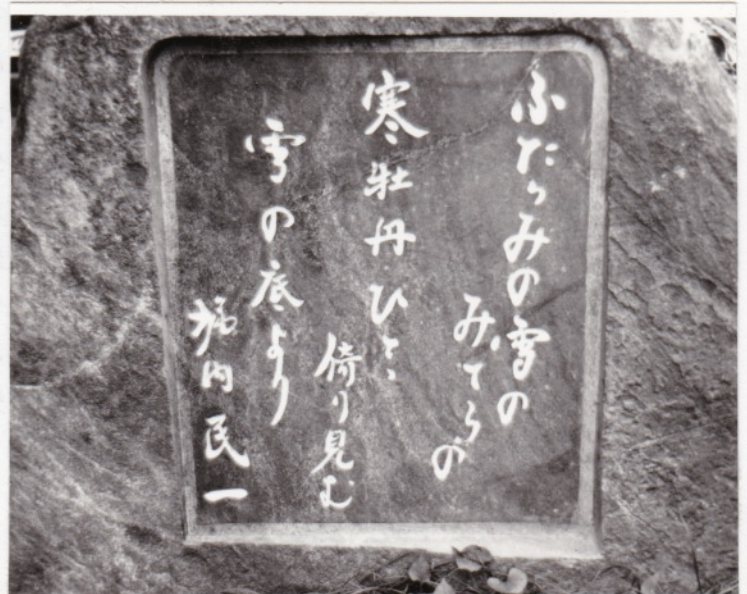
雪

道

雪

道

雪



雪

一月内閣

雪

道

雪

道

雪

道

雪



昭和二十二年十一月

友人有志

一月内閣

雪

道

雪

道

雪

道

雪

堀口大學詩碑

所在地 宮城県白石市調練場 市民会館前

こけしは
なんで
かわい、か
おもっ
おもいを
いわぬから

こけしの碑

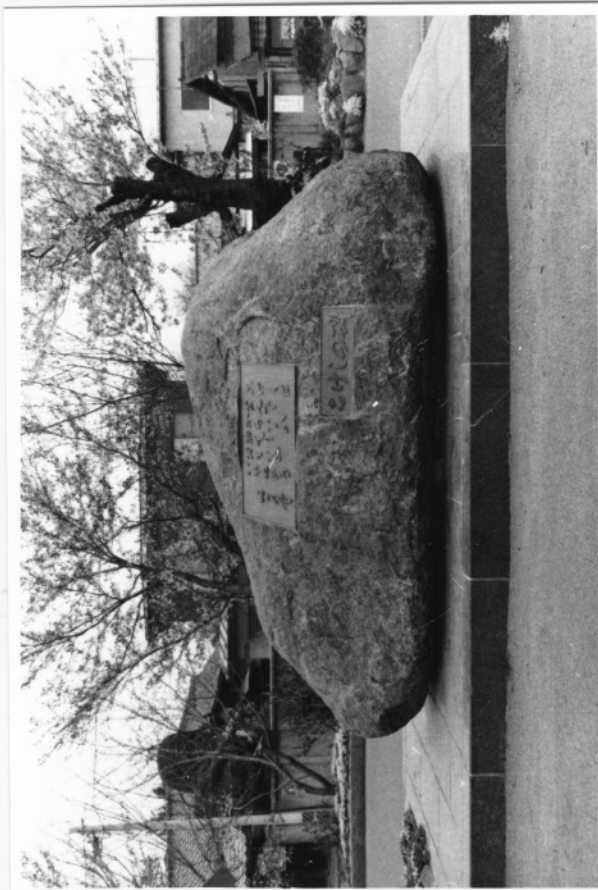
堀口大學

略歴

堀口大學 明治三十五年一月八日 東京本郷森川町に生まれる 慶応義塾文学部
中退 外国生活が長い 昭和五十六年三月十五日歿す 享年八十九歳 墓は神奈川県
鎌倉市十二所五三 鎌倉霊園 五区八十九号にある

碑陰

昭和47年5月建之
白石市



堀口大學詩碑

所在地 宮城県白石市沢端町 4-1 市民体育館横

こけしは
なんで
かわいゝか
おもう
おもいを
いわぬから

堀口大學

碑

の

し

け

こ

碑陰(横書き)

昭和 47 年 5 月建之

白 石 市

略歴

堀口大學 明治 25 年 1 月 8 日 東京本郷区森川町に生まれる 慶応義塾大学
文学部中退 外国生活が長い 昭和 56 年 3 月 15 日歿す 享年 89 歳 墓は
神奈川県鎌倉市十二所 512 鎌倉霊園 5 区 89 号にある



船岡公園の桜 ←

堀口大學詩碑

所在地 栃木県塩谷郡藤原町龍王峽 むぎさび橋上流

石は黙つてもものを云う

直かに心にものを云う

雨には濡れて日に乾き

石は百年変らない

流れる水にさからつて

石は千年動かない

米寿 大學 老詩生



碑陰

堀口大學先生の人と詩

堀口大學先生は、明治二十五年（一八九二年）一月八日東京都本郷に生れた世界的な詩人で、翻譯家としても著名な方である。

碑面の短詩は、その著「山巔（さんてん）の氣」の中にあり、岩の公園龍王峽の風光を、端的に簡明に表現した絶唱なので、詩碑として後世に遺し以つて龍王峽の讀とする。尚この地域は教育の森、自然

探勝林として、今市營林署が管理し保護する処である。

昭和五十四年一月建之
藤原町文化団体連絡協議会

鑄造 栗田平川晋吾
至今市塚原義雄

堀口大學詩碑

所在地 栃木県日光市藤原町龍王峡 むささび橋上流

石は黙ってものを云う

直かに心にものを云う

雨には濡れて日に乾き

石は百年変らない

流れる水にさからって

石は千年動かない

米寿 大學 老詩生

碑陰 堀口大學先生の人と詩

堀口大學先生は、明治二十五年（一八九二年）一月八日東京都本郷に生れた世界的な詩人で、翻譯家としても著名な方である。

碑面の短詩は、その著「山巔（さんてん）の氣」の中にあり、岩の公園龍王峡の風光を、端的に簡明に表現した絶唱なので、詩碑として後世に遺し以って龍王峡の讃とする。尚この地域は教育の森、自然探勝林として、今市営林署が管理し保護する処である。昭和五十四年一月建之
藤原町文化団体連絡協議会

鑄造 西大由 平川晋吾
石工 今市 塚原義雄



碑

虹見の滝
↓



石工の遺蹟



堀口大學先生の人と詩

堀口大學先生は、明治二十五年（一八九二年）一月八日、東京都本郷に生れた世界的な詩人で、翻譯家としても著名な方である。

碑面の短詩は、その著「山嶺（さんてん）の氣」の中にあり、岩の公園龍王峽の風光を、端的に簡明に表現した絶唱なので、詩碑として後世に遺すに以って龍王峽の讚とする。尚この地域は教育の森、自然探勝林として、今市營林署が管理し保護する処である。

昭和五十四年一月建之
藤原町文化団体連絡協議会

鑄造 西大由 平川雪吾
石工 今市 塚原義雄

虹見の滝 (4枚巻)



龍王峽風景(4枚目)





← むささし橋



虹の滝
←

堀口大學詞碑

所在地 群馬県利根郡水上町湯腹五三 「三ノ松の井」庭園内

水上の

松の井に湧く

椿の湯

衆生一浴

心身光潔

堀口大學

碑陰

文字なし



堀口大學詩碑

所在地 群馬県利根郡みなかみ町湯原 551 「松の井ホテル」庭園内

水 上 の

松 の 井 に 湧 く

椿 の 湯

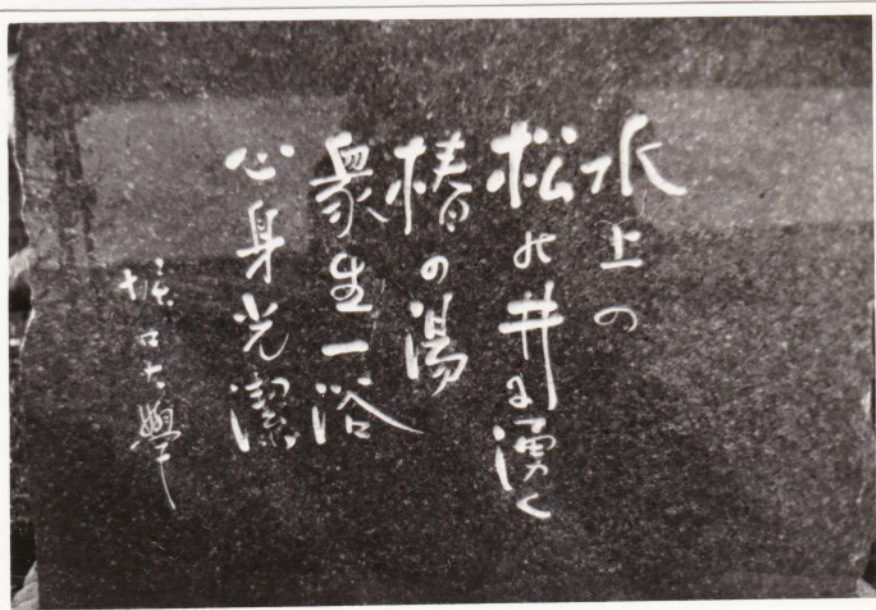
衆 生 一 浴

心 身 光 潔

堀 口 大 學

碑陰

文字なし



堀口大學詞碑

所在地 神奈川県三浦郡葉山町堀内 森戸神社境内

花はいろ
人はこころ
大學

碑陰

誌

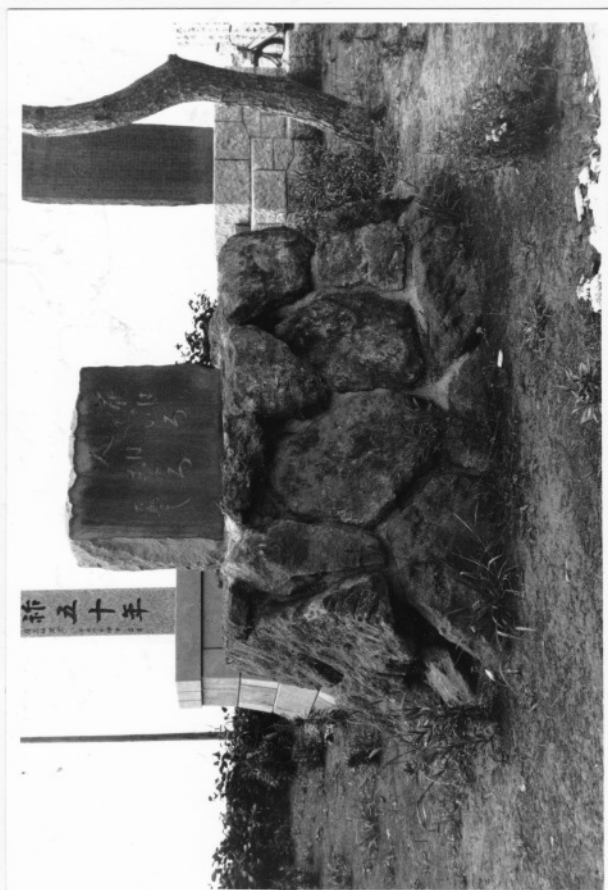
堀口大學先生は明治二十五年（一八九二）一月八日東京、本郷、森川町一番地で生れ、外交官であり詩人であつた良き父を持ち、また与謝野鉄幹、晶子夫妻や永井荷風、吉井勇、佐藤春夫という師や友に恵まれ、明治、大正、昭和にかけ詩人、訳詩家、フランス文学者として活躍をつづけられていることは、日本近代文学の世界にとって大變に幸せなことでもあります。

先生は昭和二十五年（一九五〇）より葉山に居住され、現在までに芸術院会員、読売文学賞、新年歌会始め召人、文化功労者、勲二等瑞宝章、葉山町名誉町民など、その業績に対して幾多の榮譽に輝かれております。

葉山小学校校歌は、先生の作詩、岡伊玖磨氏の作曲であります。

先生の詩碑建立にあたり、今後の御活躍と益々の御健康を祈るものであります。

昭和五十二年十一月二日



堀口大學詞碑

所在地 神奈川県三浦郡葉山町堀内 1138 森戸神社境内

花 は

い ろ

人 は

こゝろ

大學

碑陰

誌

堀口大學先生は、明治二十五年(一八九二)一月八日東京、本郷、森川町一番地で生れ、外交官であり 詩人であつた良き父を持ち、また 與謝野鉄幹 晶子夫婦や 永井荷風、吉井勇、佐藤春夫という 師や友に恵まれ、明治 大正 昭和にかけ詩人、訳詩家 フランス文学者として活躍をつづけられていることは 日本近代文学の世界にとって大変に幸せなことであります

先生は 昭和二十五年(一九五〇)より葉山に居住され、現在までに芸術院会員、読売文学賞、新年歌会始め召人、文化功労者勳二等瑞宝章、葉山町名誉町民など その業績に対して幾多の榮譽に輝かれております

葉山小学校校歌は、先生の作詩、団伊玖磨氏の作曲であります

先生の詩碑建立にあたり、今後の御活躍と益益の御健康を祈るものであります

昭和五十一年十一月三日

葉山町長 田 中 富



堀口大學詩碑

所在地 新潟県長岡市学校町三丁目 長岡高校 玄関前

母校百年

来ては学んで巣立ちゆく

郷土の誇る俊秀を

不屈の意気に燃えつづけ

百年一日育て来た

名も長岡の高校と

百の寿祝う学校よ

今日の思出次はどの祝賀ぞ

重ねてよ幾く度も

時空の限り

碑陰

文字なし

堀口大學



堀口大學詩碑

所在地 新潟県長岡市学校町3丁目 長岡高校 玄関前

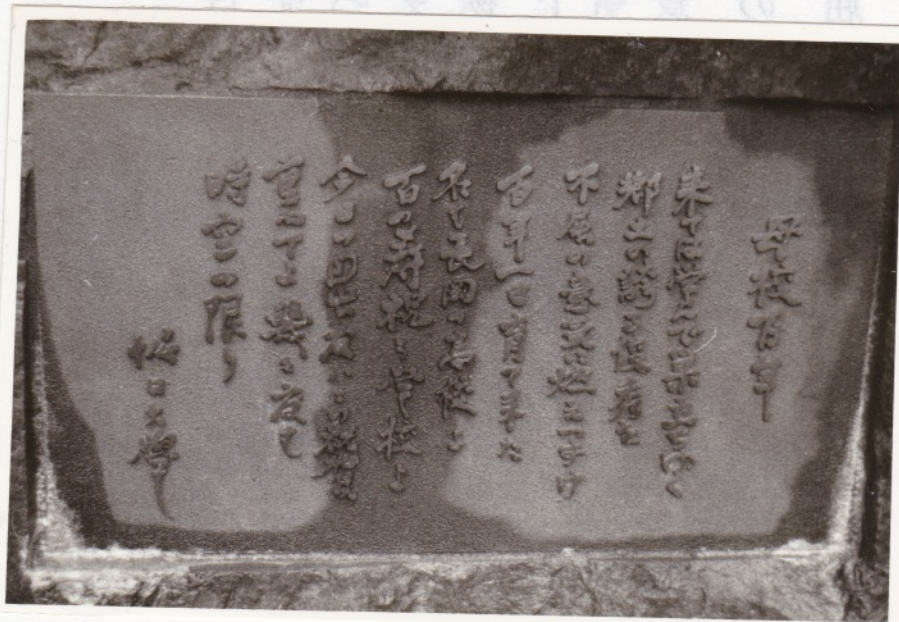
母 校 百 年

来 て は 学 ん で 巣 立 ち ゆ く
郷 土 の 誇 る 俊 秀 を
不 屈 の 意 気 に 燃 え つ ず け
百 年 一 日 育 て 来 た
名 も 長 岡 の 高 校 と
百 の 寿 祝 う 学 校 よ
今 日 の 思 出 次 は ど の 祝 賀 ぞ
重 ね て よ 幾 く 度 も
時 空 の 限 り

堀 口 大 學

碑陰

文字なし



堀口大學記念碑(木碑)

所在地 新潟県上越市南城町三番 旧居跡

詩人 堀口大学こゝに住む

右側面

高田文化協会結成二〇年記念事業

昭和五十八年十月建立

左側面

高田文化協会



堀口大學記念碑(木碑)

所在地 新潟県上越市南城町3丁目1番 旧居跡

詩人 堀口大學こゝに住む

右側面

高田文化協会結成二〇年記念事業
昭和五十八年十月建立

左側面

高田文化協会

(柳木) 新会 筑豊大学 附

福岡県 春日市 春日町

春日町 春日町 春日町



堀口大學詩碑

所在地 新潟県上越市西城町二丁目 お濠端

高田に残す

碑陰

ひかるゝおもひ
うしろかみ

のこるこゝろの
なぞ無けん

すめば都と
いふそくや

高田よせらば
そきくあれ

おぼりのはすよ
清う咲け

雪とこしへに
白妙に

堀口大學

堀口大學

一八九二年一月八日父九萬一母政の長男として東京本郷に生れる 一八九四年父君外交官として任地赴任に当り家郷長岡に歸り成人一九一九年第一詩集月光とピエロ出版 一九二五年訳詩集月下の一群出版以後詩集訳詩集翻譯と数多くの業跡は日本文学に多大の影響をあたえ一九六七年宮中歌会始の召人にえらばれる一九七〇年文化功勞者として顕彰さる 一九四五年妙高山麓関川に妻の実家畑井家に疎開翌年高田市南城町はお濠端の仮寓に移られこの地と人をこよなく愛し詩集冬心抄乳房雪国にてをはじめ多くの詩を残された一九五〇年神奈川県葉山町に移られる一九七九年文化勲章受章さる一九八〇年四月吉日之建 池田 一馨

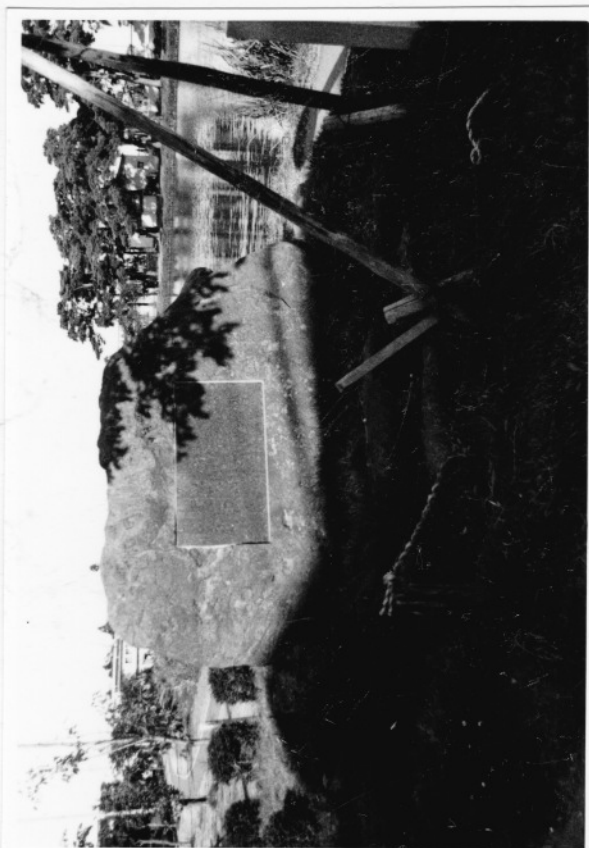
粹外

氏名多数
列記(略)

副碑

堀口大學先生詩碑
高田に残す

裏面 昭和五十五年春之建



堀口大學詩碑

所在地 新潟県上越市西城町1丁目 お濠端

高田に残す

ひかるゝおもひ
うしろかみ

のこるこゝろの
なぞ無けん

すめば都と
いふさへや

高田よさらば
さきくあれ

おほりのはすよ
清う咲け

雪としへに
白妙に

堀口大學

碑陰

堀口大學

一八九二年一月八日父九萬一母政の長男として東京本郷に生れる 一八九四年父君外交官として任地赴任に当り家郷長岡に歸り成人一九一九年第一詩集月光とピエロ 出版 一九二五年 訳詩集月下の一群出版 以後 詩集 訳詩集 翻訳と数多くの業跡は日本文学に多大の影響をあたえ一九六七年宮中歌会始の召人にえらばれる一九七〇年文化功労者として顕彰さる 一九四五年 妙高山麓 関川に妻の実家 細井家に疎開 翌年高田市南城町はお濠端の仮寓に移られこの地と人をこよなく愛し 詩集 冬心抄 乳房 雪国にて をはじめ 多くの詩を残された 一九五〇年 神奈川県 葉山町に移られる 一九七九年 文化勲章受章さる 一九八〇年四月吉日之建 池田 一謹書

粹外

氏名多数列記(省略)

副碑

堀口大學先生詩碑
高田に残す

裏面 昭和五十五年春之建



堀口大學歌碑・佐藤春夫句碑

所在地 奈良県桜井市桜井二丁目 等弥神社境内

大和には
みささぎ多し
岫もみち

春 夫

副碑

等弥神社々頭の
春夫兄の句碑のか
きに、老生の歌碑
をお建て下さるとの
こと、これは願つて
もない幸せ、まゝで
お受けいたします。
お互が平身にもまだ
ならぬ頃から、まだ
長い一生のあいだ老
生をいたわり導き
続けてくれたこの友
の、世にたぐいない
友情と、これに慕い
よる老生の心の後
の世の姿として何
かこれにまさりまし
よりぞ。

昭和四十六年七月二日
大學老詩生

えきに來て等弥の
おん神をろがみし
友につぎきて
われもをろがむ

大 學

碑陰

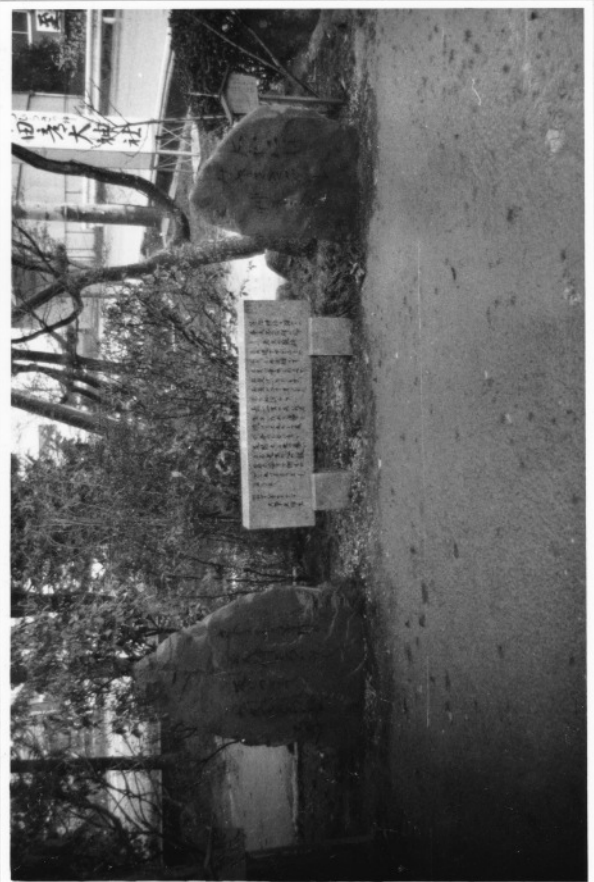
文字なし

碑陰

昭和四十七年 桜井市建之

碑陰

昭和四十八年新嘗祭
願主 服部源二



堀口大學歌碑・佐藤春夫句碑

所在地 奈良県桜井市桜井 1176 等弥神社境内

大和には
みささき多し
艸もみち
春夫

碑陰

昭和四十七年 桜井市建之

副碑

等弥神社々頭のかの
春夫兄の句碑の脇
きに、老生の歌碑
をお建て下さるとの
こと、これは願って
もない幸せ、よろこんで
お受けいたします。
お互いが二十才にもまだ
ならぬ頃から、
永い一生のあいだ老
せいをいたわり導き
続けてくれたこの友
の、世にたぐいない
友情と、これに慕い
よる老生の心の後
の世の姿として何もの
かこれにまさりまし
ようぞ。

碑陰

昭和四十八年新嘗祭

願主 服部源二

昭和四十八年七月二十一日

大學老詩生

さきに来て等弥の
おん神をろがみし
友につゞきて
われもをろがむ
大學

碑陰

文字なし



大口園

御前町

大
古
木

戦後



堀口大學句碑

所在地 奈良県桜井市桜井二丁目 等祈神社境内

春夫句碑除幕

草もみぢ

友の声かと

虫を

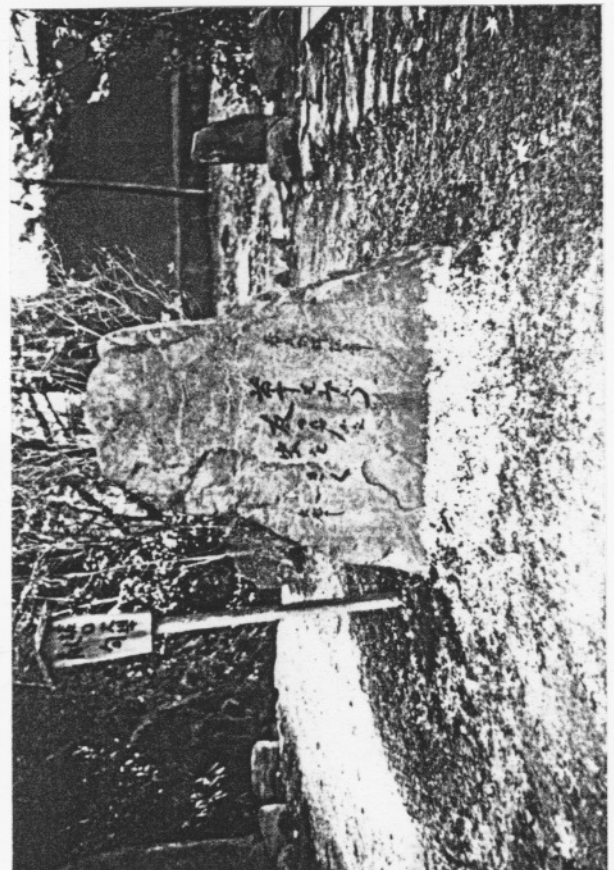
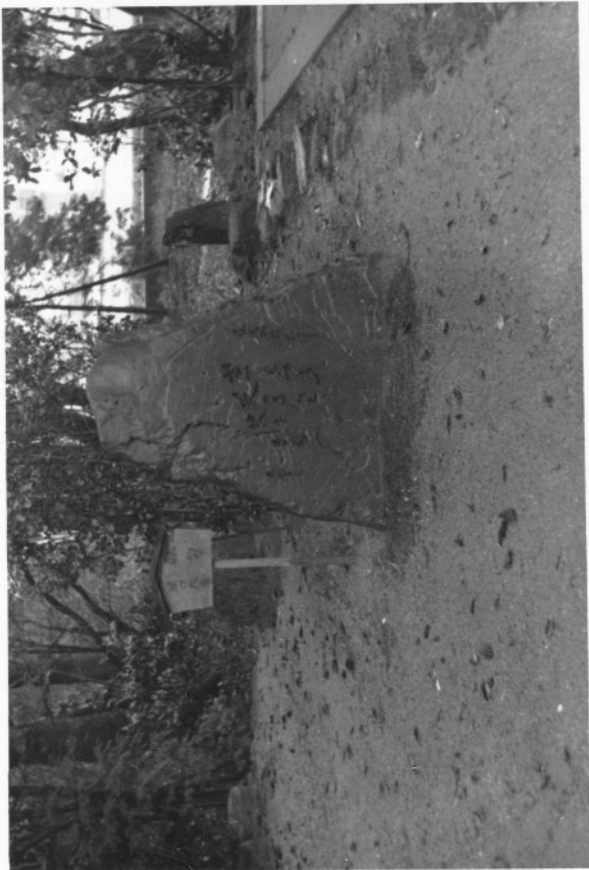
きく

大學

左側面

昭和四十九年五月五日

氏子 宮本 滋



堀口大學句碑

所在地 奈良県桜井市桜井 1176 等弥神社境内

春夫句碑除幕

草もみぢ

友の声かと

虫を

きく

大學

左側面

昭和四十九年五月五日

氏子 宮本 滋



註山神社
十三重塔 ↓



山崎僧山と香久山



大和山



耳成山
← 桜井公園からの景色

堀口大學詩碑

所在地 大阪府富田林市北大伴五七 西村勝子(姪西村周夫)氏墓内

草の風

おん手に

うきき

虫の音の

こころに

きこゆ

大學書目

(扇面)

碑陰

昭和三十九年盛夏

真仁刻



堀口大學詩碑

所在地 大阪府富田林市北大伴 357 西村勝子（故西村周夫）氏宅庭内

草の風

おん手に

うごき

虫の音の

こゝろに

きこゆ

大學書

（扇面）

碑陰

昭和三十九年盛夏

真仁刻



堀口大學詩・「明星」記念碑

所在地 山口県佐波郡徳地町伊賀地下新田 防石鉄道跡地

明星ゆかりの地

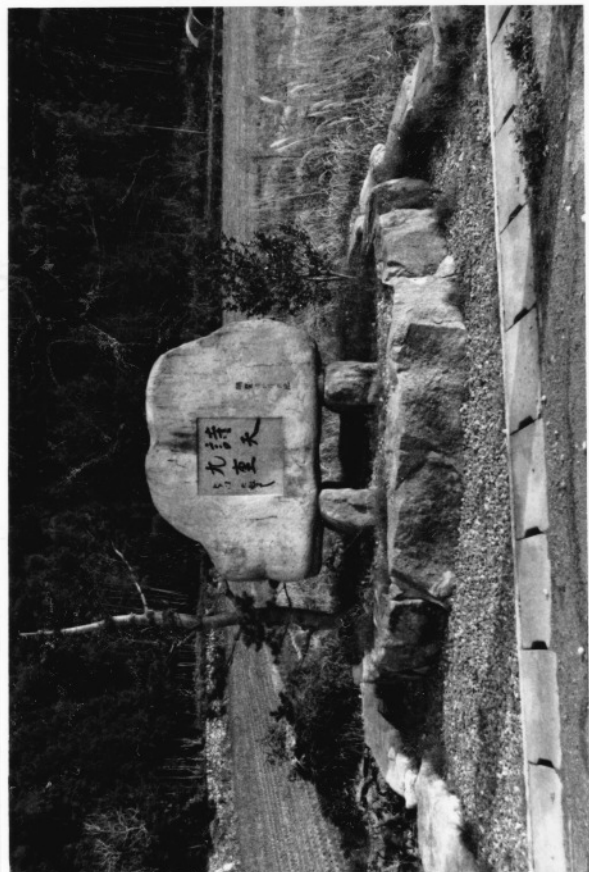
詩 天
九 重

与門 大學

碑 陰

徳地町文藝協會

昭和五十四年十一月三日



熱血の詩人・与謝野鉄幹の指導のもとに伝統文芸を大胆に革新し、西欧

と原白秋らの代表的詩人を世に送って、明治三十
浪漫主義の華を咲かせた「明星」の創刊は明治
で、林の編集の長女として明治十年一月一日この
学び、小太郎の妻となつた
家出資によつて刊行されたものである。となつ
家跡地に、鉄幹研究者と地元民の協力により
「詩天九重」の建立は、堀口大學
が、詩天九重の詩の天上の意、意味、高さはいくら
意があり果てが知れないといふ意味で、「与門」
碑を建て、林家の陰の遺業に敬意を表わすとともに
月三日

石工 隅田文二
造園師 水津 税

石河野正 撰
田幸男 書

堀口大學詩・「明星」記念碑

所在地 山口県山口市徳地町伊賀地 下新田 防石鉄道跡地

明星ゆかりの地

詩 天

九 重

与門 大學

碑陰

徳地町文藝協會

昭和五十四年十一月三日

熱血の詩人與謝野鉄幹の指導のもとに伝統文芸を大胆に革新し、西欧の詩声を積極的に讃え、與謝野晶子・山川登美子・石川啄木・佐藤春夫・高村光太郎・吉井勇・北原白秋らの代表的詩人を世に送って、明治三十年代の詩歌歌壇に華麗な浪漫主義の華を咲かせた「明星」の創刊は明治三十三年四月で、五号までの編集発行人は林滝野である。

林滝野は伊賀地の旧家、林小太郎の長女として明治十年一月一日この地に生れ、徳山女学校に学び、明治三十二年十月與謝野鉄幹の妻となった。初期の「明星」は林家の出資によって刊行されたものである。

この記念すべき地（林家跡地）に、鉄幹研究者と地元民の協力により文学碑を建てることとなり、碑文「詩天九重 与門大学」は、堀口大学先生の寄せられたもので、「詩天九重」とは、詩の天上の高さはいくら追い求めても、さらに上があり果てが知れないという意味で、「与門」は、與謝野鉄幹の門人の意味である。

林滝野の生誕地に文学碑を建て林家の陰の偉業に敬意を表わすとともにその芳名を永く伝えんとする。

昭和五十四年十一月三日

河野 正 撰

石田幸男 書

敷地提供 高木 満 石工匠 隅田文二

碑石寄贈 原田猶久 造園師 水津 税